ふくしま駅伝 力走の記録

1区　菅野裕日子 選手

120%の力を出したが悔しかった。両親、大学時代の友達がかけつけてくれて力になった

2区　髙橋隆聖 選手

初めての駅伝で緊張したがエールをもらい練習より早く走ることができた

中学生から出場し次回大会で個人出場20回目となる大内選手。「村チームとして出場したい」と決意を新たにしていました

3区　大内龍太郎 選手

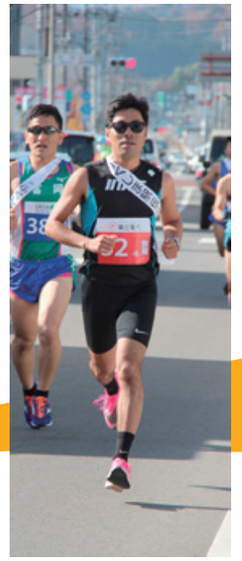
今年は満足な練習ができず不安だったが敢闘賞が取れてうれしい

4区　髙橋大和 選手

大会前日に足の張りがあり不安だったが完走することができてよかった

5区　大内匡泰 選手

走ることで村に関われることがうれしい。これからも走り続けたい

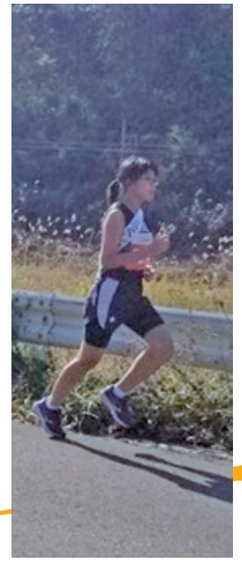


6区　佐藤彰洋 選手

多くの方のサポートのおかげで参加ができた。敢闘賞という形で恩返しができたかと思う

7区　三浦有矢 選手

練習で村内を走ると村民から応援をもらえてうれしかった。駅伝を通して村が好きになった



8区　杉岡佳朋 選手

初参加で走り切れるか不安だった。チームの皆がいてくれたことが力になって完走できた

9区　高橋良太 選手

チームとして賞を獲得できたことがうれしい。自分のふるさとは飯舘村だと思っています

6回目の出場も活躍。アンカーを務めるのも4回目！

ふくしま駅伝 チームワークでつかんだ敢闘賞

「ふくしま駅伝」は、福島県のスポーツ振興、各市町村の「ふるさとおこし」を目的に、平成元年から開催されています。今年の第32回大会は、「郡山ヒロセ開成山陸上競技場」をスタート、福島県庁前をゴールに全９区間で開催され、飯舘村チームの熱き力走が「敢闘賞」に輝きました。

全区間を完走！敢闘賞に輝きました

11月15日、第32回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が、郡山市をスタートに、福島県庁までの9区間、50.2㎞で行われました。

今年の「ふくしま駅伝」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年の16区間を短縮し、出場選手の人数を減らして行われました。

飯舘村チームは、選手、スタッフらが一丸となり、全区間を力走しました。記録は3時間9分22秒で、総合順位は46位。昨年から7つ順位を上げ、入賞を逃したチームの中から前回大会の順位を大きく上回った市町村に贈られる「敢闘賞」に選ばれました。

チームを支えたいいたて希望の里学園

飯舘村チームは、感染症対策を行いながらの練習、県外在住のふるさと選手が参加できないなど、厳しい条件がある中で、単独チームを編成すべく準備を重ねていきました。

そのような中で、今年度、「いいたて希望の里学園」に陸上部が新設されたことは、明るいニュースでした。部員の皆さんのご協力が、駅伝チームの大きな戦力となりました。

陸上部は、「いいたてスポーツ公園」などで練習を重ね、一般選手と共に合宿なども行いました。初めて走る生徒に対しては、先輩ランナーがアドバイス。スタッフも練習から大会当日まで、サポートを続けました。そうした日々は、子どもと大人が「駅伝」でつながり共に過ごす貴重な時間ともなりました。大会というゴールを迎えて行われた解団式では、支えてくれた方々や仲間への感謝の言葉が続き、チームのつながりが、いっそう深まっていくようでした。

飯舘村チーム紹介

総監督	林 英滋（濱田建設）
監 督・6区	佐藤彰洋（南相馬消防署）
コーチ・9区	高橋良太（希望の里学園教員）
コーチ	向井 敏 （希望の里学園教員）
コーチ・3区	大内龍太郎（村社協）※主将
1区	菅野裕日子（村役場）
2区	髙橋隆聖（希望の里学園9年）
4区	髙橋大和（希望の里学園9年）
5区	大内匡泰（菊池製作所）
7区	三浦有矢（希望の里学園教員）
8区	杉岡佳朋（希望の里学園8年）
補欠	赤石澤歩美（村役場）
補欠	結城樹真（希望の里学園7年）
補欠	菅野拓真（希望の里学園7年）
補欠	渡辺 煌 （希望の里学園8年）
補欠	飯畑友貴（南相馬消防署）
サポート	杉都珂瑳（希望の里学園陸上部）
サポート	鴫原悠生（希望の里学園陸上部）